

「式次第には謝辞とありますが、謝罪のほうがふさわしいと思います」。本年度の道文化奨励賞に輝いた影山吉則さん(五〇)。十一月下旬に伊達市で開かれた受賞記念祝賀会で、お礼のあいさつをそう切り出した。

来春開校する登別明日中等教育学校の開設準備

## 謝罪

室スタッフ。この春まで英語教諭として十八年間勤務した伊達緑丘高で演劇部を興し、四度全国大会に導いた。また、市民劇団を結成して脚本を担当、伊達の夏を彩る武者まつりの演出も引き受けるなど、校内外での幅広い活動が認められての受賞だった。

祝賀会には二百人近く

が駆けつけた。演劇一筋の半生がスライドで紹介され、教え子や演劇仲間らが影山さんの思い出を語った。「地域でこんなに愛された高校の演劇指導者はいない」という賛辞は、出席者の心に当たり前のように届いた。

それだけに「謝罪」という言葉に会場は一瞬静まったが、すぐに笑みが

広がった。「生徒たちには厳しく当たり、劇団では年長の人を怒鳴ることもありました。本当にすみません。でも、これからも変わらないと思いますので」。 「謝罪」に名を借りた決意表明だった。

(小野高秀)

